

令和7年度 壱岐市立芦辺小学校 学力向上プラン

やさしく かしく たくまい 芦辺っ子の育成

育てたい学力

- 基礎的・基本的な学力(読み・書き・計算)
- 問題解決的能力(個人の学習 PDCA サイクルを作る)
- ICT の活用能力(使う場面や時間を選択する能力)

児童の学力の実態

- 昨年度からの取組でミライシードの使用は多くなっている。児童もスムーズに学習できている。
- 困難なことへの関心・意欲が低い。計画性が低い。(日々の観察)
- 家庭学習の習慣がなく、学力的に支援を要する児童がいる。(学習の取組状況)
- 基礎的・基本的学力が定着していない部分がある。令和6年度1月に実施した教研式 CRT 学力テストにおいて、国語も算数も全学年が全国平均を上回っている。領域別に見ると、国語の「話す・聞く」、算数の「**数と計算**」の領域においては、他の領域よりも低い傾向が見られる。
- 令和7年度県学力テストにおいては、国語の「読むこと」に関して個人差が大きく、低位の児童を高めることが課題である。

授業改善

- 学び方の定着
・「体験的な活動を取り入れた問題解決的な学習過程」の定着
- ①「つかむ」過程の工夫改善
 - ・体験的な問題提示の工夫
 - ・問題を正しく理解する工夫
- ②「しらべる」過程の工夫改善
 - ・自分の思い・考えを持つ(書き表す)
 - ・個に応じた支援の充実
- ③「ねりあげる」過程の工夫改善
 - ・自分の思い・考えを伝え合う
 - ・自分の思い・考えを見つめ直す(高める、深める)
- ④「ふりかえる」過程の工夫改善
 - ・わかったこと、できたことを自覚する
 - ・理解を確かめる(習熟、発展)
- ガイド学習の定着
- 学習過程の特性に応じた ICT 機器の効果的な活用

学習環境の整備(家庭・地域との連携)

- 伸びっ子タイム(国・算)週2回各15分 14:20～
ドリルパークの課題配信を行い、各月で達成状況を個人表彰する。児童の実態に合わせて課題を変化させ、表彰を続ける。また、ミニ読書タイムと暗算タイム(プリント)も行い、書く活動も継続して取り組ませる。
- 自学コンテスト
PDCA サイクル確立を目指して、授業の復習・予習をノートにまとめる。全校児童分を掲示し、コンテストを実施する。賞を企画し、相互評価を行う。(年3回)
- 読書活動の推進
親子読書を推進する。(年間数回実施)
読書冊数、読書ページ数の継続的な評価を行う。
マザーグースによるイベントを行う。
- 「家庭学習ふりかえりカード」の取組
年3回実施する。ふりかえりの結果を職員・保護者で共有し、賞賛する点や改善点を共に考える。
- 校内研修だよりを児童へ定期的に発信する。
- 懇談会や学校・学年のおたより等で学習の実態を知らせ、学習の意欲を高める啓発活動を行う。

学力評価

- 定期的に評価を行い、指導に活かす。(指導と評価の一体化)学力テストを年2回実施する。
- 12月実施予定のベネッセ学力調査で、4月実施の結果よりも国語・算数ともに**標準スコア**を高める。また、令和8年度の県学力テスト及び全国学力学習状況調査で、今年度よりも**標準スコア**を上げる。

教師の指導力向上

- 各種研修や他校の公開授業への積極的参加
- 出張後の報告や、日常の実践内容の共有